

JCI-TC115FS「ASR 診断の現状とあるべき姿」研究委員会  
第 5 回 全体委員会 議事録 (案)

日時：2012 年 8 月 20 日 (月) 15:00～17:30

場所：JCI 第 5 会議室

出席者：山田委員長，鳥居顧問，宮川顧問，川端幹事長，久保幹事，合田幹事，広野委員，石井委員，岩城委員，岩月委員，上田委員，鍵本委員，片山委員，金海委員，黒田委員，古賀委員，鈴木委員，鶴田委員，富山委員，中野委員，野島委員，長谷川委員，濱崎委員，三浦委員，八幡委員，山本篤委員，~~山本貴委員~~，渡部事務局  
(順不同，敬称略)

配布資料：

- 6-0 第 6 回全体委員会 議事次第
- 6-1 第 5 回全体委員会 議事録 (案)
- 6-2 片山委員話題提供資料
- 6-3 上田委員話題提供資料
- 6-4 シンポジウム資料

#### 議事内容

##### 1. 委員長挨拶

- ・ 山田委員長より委員会開会の挨拶があった。

##### 2. 委員自己紹介

今年度から委員として参加される長谷川委員から自己紹介があった。

##### 3. 議事録 (案) ならびに配布資料の確認

合田主査より，配布資料 6-1 を基に議事録 (案) の確認がなされ，議事録として承認された。

##### 4. 話題提供

片山委員より ASR ゲルの組成と ASR による膨張の起源に関する話題提供がなされた。

- ✓ ASR ゲルが結晶化したロゼットの組成は自然に産出される鉱物と同じ組成を示す。
- ✓ ASR による膨張は化学的な体積膨張以外では，ロゼットの結晶化による結晶成長圧などではなく，ASR ゲルの吸水膨張 (静水圧) によるものである。
- ✓ 結晶化していない ASR ゲルは湿度に対してセンシティブであり，湿度 90%程度でペシマムとなる。それ以上になるとゲルが溶解して膨張しにくくなる。
- ✓ 結晶化の原因は何か？何か核となるものがあるとは思われる。ロゼット化したゲルは近接するゲルと同一組成を示す。

上田委員より ASR による膨張モデルおよび構造物の力学特性の評価に関する話題提供がなされた。

- ✓ 軸方向へのひずみの低減効果をモデル化しているが，軸直角方向への影響は？あまりデータがないのでよくわからないが，一般的には軸直角方向が卓越すると考えられている。
- ✓ 不均一膨張を想定した解析では何故 PC の影響が小さくなるのか？
- ✓ 将来的な膨張挙動の違いによって補強方法が異なるため，誤った補強をする場合がある。

## 5. WGの進捗状況報告

各WG主査より、これまでの進捗状況について説明がなされた。

- ✓ 久保主査より、診断フローWGの進捗状況について説明がなされた。目的別に沿った診断フローの作成を予定しており、まずはWGの方向性について議論している。
- ✓ 合田主査より、抑制対策WGの進捗状況について説明がなされた。JCI年次大会期間中に一度WGを開催し、現在、構造物の使用性、機能性に悪影響がでていないかに着目した事例収集を行っている。今後、構造物でのASRのリスクをどのように考えるのかについて議論を深める予定である。
- ✓ 広野主査より、最新技術WGの進捗状況について説明がなされた。WGの活動方針について議論した。今後、片山委員の論文のレビュー、事例収集などを継続して進めることとしている。

## 6. シンポジウムについて

山田委員長、川端幹事長より、12/3に開催されるシンポジウムについて説明がなされた。

- ✓ 委員の関係者への周知をお願いすることとする。川端幹事長より、会告のPDFを委員に配布する。
- ✓ 委員会予算、シンポジウム経費の制約から、シンポジウムの開催日には全体委員会は開催しないことを基本とする。したがって、旅費は各委員の自己負担で参加いただきたい。
- ✓ 上記方針に従い、WGはシンポジウム以降（1月中旬～下旬）で日程調整することとする。次回全体委員会は2月後半を想定。

## 7. 次回日程

2月後半